
色ノ無イ世界。

綺羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色ノ無イ世界。

【Nコード】

N9553A

【作者名】

綺羅

【あらすじ】

……………あなたが大好き。ソレが変わらないのに…少しずつ私からあなたが消えて行く…

（前書き）

フィクションです！！
初めて書いた作品です
少しなめましたアー
♪

ねえ…あなたは、覚えていてくれてるのかな？？

初めて出会ったコトを…

私は、周りにたくさんの人が居るあなたが幸せで、悩みなんか無い
と思ってたトキもあったんだ。

でも、私ね。笑っているのに、寂しそうな瞳が気になったんだ。

話してみると、あなたの心に闇があったコトに気付いたんだ。

でも、同時にそれを必死に隠そうとしているコトにも気付いたんだ。

ちよつとしたコトで、笑いあったコトを…

でもね。そんな日々が大切で、愛しいと思った。

私の作ったお菓子が、失敗したヤツたコトを…

それでも「オイシイ！！」って褒めてくれたあなたの優しさがすこ
く嬉しかったんだよ！！

一緒に遊びにいった遊園地。

あなたは、恥ずかしいと言いながらも一緒に乗ってくれたメリーゴ
ーランド。

私から入ろうと言って入ったお化け屋敷。

やっぱ怖くなってしまった私を、

手を繋ぎながら大丈夫と言ってくれて、

私、安心して歩けたんだ。

あなたは、

イツも傍に居てくれて、

イツでも笑って居て、

私を笑わしてくれたよね??

誰よりも…あなたが大切だったんだ。
あなたは、私の太陽だったんだよ。

でもね…

2人で遊んだあの公園も、

一緒に乗ったあのブランコも、

どんな色だったのか忘れてしまったよ。

あなたが居なくなってから、少しずつ…どんどん…世界から色が消えていった。

あなたを…

私を抱きしめてはにかむ笑顔すら…

どんなのだったか

…もう思い出せないよ。

私に向けてくれた優しい瞳…

私を安心させてくれた瞳…

ニッ!! てあげた口元も…

そして…笑顔が…

少しずつ…私の中から消えていくんだ…

イマではもう…

…世界は白い。

（後書き）

初めて書いた作品です。

皆さんに評価をお願いしたいです。

直したら良いと思う事などぜひお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9553a/>

色ノ無イ世界。

2010年11月14日09時41分発行